

a 学校教育目標	自らをきりひらく たくましい児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 主体的・協働的に取り組み、やりぬく児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域とともに歩み、児童が豊かに成長する安心と信頼のある学校
----------	---------------------	----------------------	---

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i	j	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			コメント
						h 達成値	h 達成値	達成度	評価			イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識及び技能をはじめ、学ぶ意欲や思考力、表現力等の確かな学力の育成を図る。	(1)基礎的・基本的な知識及び技能を習得させる。	○R-PDCAに基づく学習指導を徹底する。 ・「課題改善・学力補充シート」に基づく指導の継続 ・個に応じた指導の充実(学力の定着・向上に係る状況シートへの記入・取組)	・学力調査の全国・市平均(100%)に対する、全学年児童の到達度の割合(12月実施・1月分析) ・各教科(国語科・算数科・理科)学期末まとめのテストで全国平均以上を達成した児童の割合	100%										
			○ICT端末の活用を図る。 ・「ICT活用の系統表」の活用 ・児童が時間・場所・学習内容により自分で選び、活用できる機会を保障する。	・児童アンケート肯定的評価の割合(ICT活用)	85%										
		(2)論理的思考力・表現力並びに主体性・協働性を育てる。	○教育研究を推進する。 ・授業研究の充実(生活科・総合的な学習の時間における場面(つかむ・考える・学び合う・まとめる・R80)に応じたファシリテート力の向上) ・R80による振り返りの充実(結論先行かつ、理由や根拠を付けた具体的なまとめ・振り返り) ・少人数・複式学級指導の充実(「複式学級指導の手引き」「きはら学びのステップ」の活用、学習リーダーの育成、児童参観交流会の各学期実施) ・紙とデジタルの有効活用(デジタル教科書、思考ツール等)	・児童アンケート肯定的評価の割合(表現力)(主体性)(協働性)	90%										
				・結論先行、理由や根拠をつけて具体的に学習のまとめ・振り返りを書いている児童の割合 ・児童アンケート肯定的評価の割合(R80)	80%										
豊かな心の育成	自己を高め、他者とよりよく関わり、協調しようとする豊かな心を養う。	(1)自ら行動し、やりぬく意欲や自信を育てる。	○「木原チャレンジ」を継続する。 ・目標に向かって挑戦する場の設定(マラソン、縄跳び、暗唱、読書) ○特別活動を充実させる。 ・自律的に取り組む児童会活動の推進	・児童アンケート肯定的評価の割合(自主・自律)(意欲)(自信)	各90%										
		(2)他者と協働する態度を育て、郷土への愛情を深める。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科、総合的な学習の時間、ふれあい活動(とんど祭り、ふれあいコンサート)、学校文化(木原太鼓踊り)等の充実	・児童アンケート肯定的評価の割合(協働性)(郷土愛)	各90%										
健やかな体の育成	健康でたくましい心身の育成を図る。	(1)健康で安全な生活習慣を身に付けさせる。	○保健教育を推進する。 ・健康的な食習慣の定着に向けた食育指導の継続的・計画的な実施(健康生活チャレンジウィーク等)	・健康生活チャレンジウィークにおける達成度(感謝・マナー)	90%										
		(2)運動への意欲を育て、体力の向上を図る。	○体力づくりを推進する。 ・運動の楽しさを味わわせる体育科指導や日常活動の工夫(体育科授業導入での運動、児童会による「みんな遊び」等) ・「木原チャレンジタイム」の継続(マラソン等)	・児童アンケート肯定的評価の割合(運動への意欲)	90%										
信頼される学校の形成	安心と信頼のある学校を創る。	(1)コミュニティ・スクールを推進し、地域と学校の連携・協働体制を構築する。	○「ふるさと学習」を充実させる。 ・生活科、総合的な学習の時間、ふれあい活動(とんど祭り、ふれあいコンサート)、学校文化(木原太鼓踊り)等の充実 ○地域と協働した活動を創造・推進する。 ・クラブ活動の充実、学校行事(創立150周年記念式典)の実施	・地域・保護者アンケート肯定的評価の割合(地域との連携・協働)	90%										
		(2)安心・安全な学校づくりを推進する。 (不祥事ゼロ)	○安心・安全に対する職員の意識や動きを強化する。 ・「木原小セーフティガード」を活用した振り返り ・不祥事防止研修の工夫 ○業務改善を推進する。 ・計画的な(見通しのある)業務遂行 ・校務の効率化(デジタル化、無駄の軽減)	・「木原小セーフティガード」目標値(110%)達成職員の割合(7月・1月) ・保護者アンケート肯定的評価の割合(安心・安全)	100%										

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。